令和元年度　学びの丘　上新田学園　学校評価書

４段階評価	４　とても良い　　３　良　い　　２　少し悪い　　１　悪　い

No.	重点目標		評　価　指　標	学校としての取組や反省	保護者	教職員	学　校	委員会	学校関係者評価委員の意見
1	保護者・地域との連携	1	学校は、保護者や地域の声や願いに応える教育を行っている。	○　菜の花プロジェクトや農業体験、イートン田んぼ等、保護者や地域の方の声を反映させながら取り組むことができた。 ○　学校だより「座論梅」やホームページ等で、学校の考え方や教育実践の様子を伝えることができた。	3.48（小） 3.33（中）	3.36	3.4	3.7	・学校や子供たちの様子は、学校だよりや学級通信、ホームページ等でしかわからない。保護者の立場からするとちょっとしたことで安心したり不安に思ったりするので、できるだけ発信してほしい。 ・土曜授業として実施した持久走大会は、保護者や地域の方の協力体制がすばらしかった。 ・一部の保護者は、青パトに対して負担を感じているようだ。今後の運営の在り方や地域を巻き込んでの見守りの方法等を考える時期にきているのではないだろうか。 ・昨年度と比べて、Ｃ評価がかなり少なくなっている一方で、保護者の中には一部学校に対して偏った見方をしている人もいるようなので、保護者間で情報交換をしたり、学校が積極的に情報を発信したりするとよいのではないか。 ・現在、保護者アンケートは無記名で行われているが、ＣやＤ評価の保護者に対しては、学校からの説明が必要と考えるため、一部記名方式にしてはどうか。
		2	学校は、各種の便りやホームページ、保護者会等の中で、学校の考え方や取組の様子について伝えている。		3.59（小） 3.22（中）	3.52			
		3	学校は参観日や行事等を通して、保護者や地域住民と交流のできる機会を適切に設けている。	○　土曜授業の中に「持久走大会」を設定し、保護者や地域の方に周知することで協力や応援をいただくことができた。	3.58（小） 3.49（中）	3.44	3.6		
		4	学校は、ＰＴＡ会費や教材費など、家庭から集めたお金について適切に処理し、保護者にも説明している。	○　給食費は地区での集金とし、教材費は口座引き落としとしているが、滞りなく納入していただいている。	3.75（小） 3.54（中）	3.83			
		5	教職員（担任等）は、各種の便りや懇談会等を通して、子どもの生活状況や学級の様子を伝えている。	○　学級通信はもとより保健だよりなどを含め、その時期や子どもの状況をふまえたものを適宜発信することができた。	3.72（小） 3.32（中）	3.65	3.3		
		6	教職員（担任等）は、児童生徒のよいところや気になることについて、電話や家庭訪問などで家庭との連絡を取り合っている。	○　学級担任をはじめ、全職員でこまめに家庭と連絡を取るように心がけた。今後も保護者との信頼関係を構築していく必要がある。	3.49（小） 3.03（中）	3.43			
2	きめ細かな指導	7	学校は、楽しく分かりやすい授業を実施している。	○　年３回の重点支援校訪問の機会を活用し、授業改善のチェックポイントを意識した授業に取り組めた。	3.50（小） 3.25（中）	3.39	3.3	3.3	
		8	一人一人の学力を伸ばすためのきめ細かな指導を適切に行っている。	○　小学部では放課後の補充学習を週２回、中学部では各教科での個別指導を適宜行っている。	3.35（小） 3.15（中）	3.30			
		9	教職員は、子どもの個性をよく把握して、適切な評価や声かけをしている。	○　家庭学習については、全学年で学級懇談時に説明を行い、学校との連携・協力をお願いしている。	3.40（小） 3.01（中）	3.39			
		10	家庭と連携しながら、家庭学習の進め方について、適切に助言している。	○　児童生徒に対してはタイミングよく声かけをするよう、時機を逸しない指導の大切さを再確認していく必要がある。	3.41（小） 2.93（中）	3.35			
		11	読書活動の一環、及び課題解決の手段として、本に親しませている。	○　学校図書館については、各教科の課題解決の手段として積極的な活用をしている。ただ、本の扱い方を指導する場面もあり、公共物に対する気持ちを育てる必要がある。	3.59（小） 3.19（中）	3.08			

No.	重点目標	評価指標		学校としての取組や反省	保護者	教職員	学校	委員会	学校関係者評価委員の意見
3	児童生徒に自信	12	教職員は、一人一人を大切にした学級経営・いじめのない集団づくりを行っている。	○　年間を通してステージごとに人権集会を開き、人権担当教員による講話を通して他を思いやる気持ちや言葉の使い方を学ぶ機会を設定している。しかし、他とのコミュニケーションづくりを苦手とする児童生徒もおり、心地よい人間関係を醸成する学級経営が求められる。	3.37（小） 3.00（中）	3.46	3.2	3.4	一枚目と同じ
		13	児童同士、生徒同士が互いに認め合うコミュニケーションづくりに取り組んでいる。		3.50（小） 3.17（中）	3.18			
		14	子どもに自信をつけさせるために、授業や行事等で児童生徒が発表したり活躍したりする場を与えている。	○　意図的に自分の意見を堂々と発表する場面や機会を設定することで､児童生徒の自己有用感を高めている。	3.67（小） 3.36（中）	3.52			
4	小・中学部間の連携	15	小・中学部間の連携を図る授業や取組を適切に行っている。	○　小学部３年生から乗り入れ授業を行い、高学年では一部教科担任制の拡充を行うことができた。	3.48（小） 3.30（中）	3.57	3.2	3.4	
		16	立腰や語先後礼のあいさつの仕方等、礼儀や姿勢を意識した学習環境づくりを適切に行っている。	○　ＢＣステージの学習図書委員会の児童生徒を中心にした取組が功を奏し、整然とした環境で授業を開始している。	3.68（小） 3.34（中）	3.29			
		17	思いやりの心やルールを守る態度、協調性など、心を育てる授業や教育活動を適切に行っている。	○　毎月、全職員で児童生徒の共通理解の場を設け、対応策を確認しながら適切な支援を行っている。	3.57（小） 3.21（中）	3.26			
		18	安全、健康に関する授業や教育活動を適切に行っている。	○　学期１回の避難訓練や毎月の安全点検を通し、学校全体で危機意識の高揚に努めている。	3.56（小） 3.44（中）	3.26			
		19	いのちを大切にする教育や人権教育、情報教育など、今日的な課題についての教育を適切に行っている。	○　担任による性教育の授業や「か母ちゃっ子クラブ」「ピアサポート」、人権教育の一環としての「認知症サポーター養成講座」を計画・実践した。また、小学部ではＩＣＴ教育の研修を計画的に実施した。	3.54（小） 3.32（中）	3.22			
		※	効率よく業務が遂行できるように教職員相互で連携し、勤務時間を意識した取組ができている。	○　個々の職員が勤務時間を意識した時間管理ができるよう、管理職が率先して業務を見直すことや意識改革を促す働きかけをしていくことが課題である。	教職員のみ	2.79			
5	上新田スタンダード	20	自他を高める学習５原則（１分前着席、大きな声で始めと終わりの挨拶、忘れ物ゼロ、授業に集中、きちんと家庭学習）について取組を行っている。	○　学校だよりや学級通信等で学校の現状を伝えるとともに、家庭への協力をお願いすることができた。 ○　昨年に続き、小中合同のサマースクールを実施することができた。	3.62（小） 3.38（中）	3.22	3.2	3.3	
		21	自他を大切にする生活３原則（温かい学校、美しい学校、元気よい学校）について取組を行っている。	○　毎月の凡事徹底を掲げ、全校で取り組んでいる。小学部では定期的にあいさつ運動に取り組むことで、元気のよいあいさつ、廊下等での会釈が随所に見られるようになった。	3.55（小） 3.32（中）	2.92			
		22	ふるさとを大切に思い、子どもたちの夢を育む教育に取り組んでいる。（キャリア教育）	○　校長講話や朝の会・帰りの会等、教育活動全体を通して、夢を抱き夢を語る児童生徒の育成に努めた。	3.50（小） 3.40（中）	3.20			

次年度の方向性についての校長所見

1　家庭・地域との信頼関係をよりよくするため、今後とも積極的な情報発信と共通理解に努め「地域に開かれた学校づくり」をさらに目指したい。
2　小中一貫教育校の３年目として、小学校での一部教科担任制の拡充と特別支援教育と生徒指導の充実に向けて、意図的・計画的に小中の連携を深めたい。
3　安心して学校生活を過ごすことのできる環境を整えるとともに、自己有用感を持たせる機会を意図的・計画的に作ることで、児童生徒一人一人の成長を促したい。